“食育のまち紀の川市”農業6次産業化プロジェクト

現状と課題

◆紀の川市は県内一の農業生産地だが、産出額は低減している。
平成5年:241億円→平成21年:188億円

◆「めっけもん広場」は農産物販売高全国1位
- 全販売実績：27億円（H21年度）
- レジ通過者：83万人（H21年度）
- 県外客総数：80万人（H21年推計）

◆紀の川市は平成20年度から「食育のまち紀の川市」を推進。食育の拠点は青洲の里

【農業6次産業化】
農業者や農産加工グループの所得向上を図るため「加工・販売」に進出
【食育・地産地消・情報発信】
めっけもん広場を訪れる買い物客を青洲の里や地元飲食店に誘導するしくみを構築し、あわせて「食育のまち紀の川市」を県外に情報発信

【事業主体】
「食育のまち紀の川市」推進協議会(仮称)
紀の川市、JA紀の里、紀の川市商工会
紀の川市観光協会、紀の川市食育推進会議

【活用事業】
わがまち元気プロジェクト支援事業
ふるさと雇用対策事業、紀の川市事業
JA紀の里事業、商工会事業

【全体事業費】 107,133千円

紀の川市	10,600千円
県	41,633千円
国	29,900千円
JA紀の里	24,600千円

取組の3本柱（H22～H24）

〈1〉 農業の6次産業化　61,957千円

（1）加工品開発

①野菜・果物の加工品開発（JA紀の里）
- JA紀の里ふるさとセンターに加工品の企画開発拠点を整備
- 野菜、果物のカットやピューレなどの一次加工品等を開発・販売するとともに、紀の川市食育推進会議が作成した食育メニューを活かしたレシピと素材をセットにした商品も販売
- いちじく、はっさくなど地元の農産物を活用したジャム、ゼリー等の特産品を開発販売（フルーツキャラクター紀の川ぷるぷる娘を活用）

紀の川ぷるぷる娘

さくぷる　かきぷる　じくぷる　いちごっぷる　ももぷる　きうぷる

②農産加工グループの加工品開発と起業化支援
（農産加工グループ・推進協議会）
- 新商品開発やパッケージデザインのブラッシュアップ
- 製造におけるリスク管理（品質管理・衛生管理・食品表示等）
- 起業（法人化）に向けた取組
- 「加工体験」の受け入れ促進

（2）販路の開拓（JA紀の里・推進協議会 ）
- めっけもん広場以外の量販店、小売店、福祉施設、給食セン

〈2〉 地産地消に向けた取り組み　39,430千円

（1）「青洲の里」の充実

①レストランの拡充（紀の川市）
- テラス席の改修により稼働客席を拡大（49席→79席）

②食育拠点としての機能強化（推進協議会）
- 食育語り部の養成研修とマニュアル作成（語り部養成人数：30人）
- 「めっけもん広場」・「青洲の里」・「農産加工グループ」で語り部として活動
- 健康メニューのレシピ公募と優秀作のメニュー化

（2）めっけもん広場と地元飲食店間の誘客システム構築
（推進協議会・商工会）
- 飲食店スタンプラリーマップを作成し、めっけもん広場等で配布
- めっけもん広場の買い物レシート持参客には飲食店で特典付与とスタンプ押印

〈3〉 紀の川市農業6次産業化情報発信
5,746千円

（1）ホームページ制作（紀の川市、推進協議会）
「めっけもん広場」・「青洲の里」・「地産地消」・「食育のまち」をトータルで情報発信

（2）大消費地における食育フェア＆トップセールス
（紀の川市、推進協議会）

目　標

	【平成２２年度】		【平成２４年度】
① ＪＡ紀の里農産加工品販売額	－	→	２．５億円
② 農産加工グループ販売額	2,000万円	→	2,600万円
③ 〃 法人化数	－	→	２法人化
④ 青洲の里健康バイキング利用者	２万人	→	３万人
⑤ 語り部による食育普及人数	－	→	５万人
⑥ 食べ歩きラリー参加者人数	－	→	２万人